

地域研究と 教育

vol.
6

2013-2017

COC地域志向研究・教育総集編



島根県立大学短期大学部
松江キャンパス

しまね地域共生センター
Shimane Center for Enrichment through Community, The University of Shimane Junior College

〒690-0044

島根県松江市浜乃木7-24-2

TEL 0852-28-8322

FAX 0852-20-0267

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp>

「地域研究と教育 Vol.6」

はじめに

島根県立大学短期大学部(松江キャンパス)は、健康栄養学科・保育学科・総合文化学科の3学科から構成されており、教育研究にあたる教員34名と事務職員で組織されています。

各教員の研究は、それぞれの専門領域の学問的な課題探求によるものであり、松江キャンパス全体で人間諸科学の多彩な領域の研究がおこなわれています。

その中から、「地域」に特化した研究と、地域貢献を目指した教育活動をまとめ「地域研究と教育 vol.6」を発刊します。vol.5までの内容を更に充実させ、これまでの総集編ともなる冊子として編集しました。地域の活性化を支える松江キャンパスの教職員、さらに学生の活動意欲の高さを地域の皆様に広く知っていただきたいと思います。

この「地域研究と教育」は、平成24年6月に文部科学省から発表された「大学改革プラン」の目標の一つ、「地域の課題解決の中核となる大学の形成-大学COC(Center of Community-地(知)の拠点)機能の強化」の推進を契機に同年11月に創刊しました。平成25年度には、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学)COC事業」の採択を受け、翌平成26年4月に、この地域の「ともに支え合う学びのプラトホーム」となるべく「しまね地域共生センター(愛称:しまね縁ラボ)」を開設しました。その後は「しまね縁ラボ」を拠点として大学と地域を結び、双方からこの地域の課題解決に向けた様々な取り組みのマッチングやコーディネートをして一体的な研究・教育活動を推進するとともに、その活動内容を「地域研究と教育」にまとめ公表してきました。

今年度で5年間の文部科学省COC補助事業は終了しますが、続いて既に文部科学省補助事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」(大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする)を開始し、これまでの「地域」活動を継続しています。

この松江キャンパスは、平成30年度から現短期大学部の再編、4年制学部「人間文化学部」の開設と大きく生まれ変わります。短大・4大併置の地方の公立大学として、引き続き地域との連携を大切に、地域の文化資源の発見・探求・活用、地域の人材養成等の研究を進め、一層、地域に貢献していきたいと考えていますので、地域の皆様におかれましても、更なる連携、参画、ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

平成30年3月

松江キャンパス副学長 岸本 強

CONTENTS

健康栄養学科

- 02 食育プログラムの開発研究
- 03 島根県産米「つや姫」の開発研究
- 04 西条柿加工食品の開発・研究
- 05 「しまね和牛」の開発研究
- 06 高齢者健康栄養研究(浜田市共同事業)
- 06 島根県産品を活用した商品開発研究

保育学科

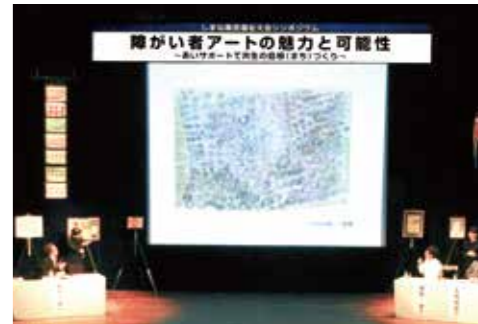
- 07 保育・幼児教育の地域課題研究
- 08 ふるさと体験に基づく教育の研究
- 09 保育・発達支援ツール開発
- 10 文化資源・アートの多様性探究
- 11 社会的養護の推進に関する開発研究

総合文化学科

- 12 「古事記」「出雲風土記」の探究
- 13 地域資源に基づく英語教育の開発研究
- 14 「読み聞かせ」の研究と実践
- 15 島根県における伝説と民話の研究
- 16 島根県における観光の研究
- 17 ハーン研究と地域貢献

2013-2017 COC経過報告

- 18 [教育] 松江キャンパスにおける「地域志向教育」
- 20 [研究] 松江キャンパスにおける「地域志向研究」
- 21 [社会貢献] 新たな「社会人の学び」に向けて
- 22 [展望] 「マイスター制度」の構築-新たな地域貢献人材の育成に向けて
- 23-26 地域志向研究活動一覧
- 27 地域志向教育活動一覧



食育プログラムの開発研究

代表 教授：名和田清子／健康栄養学科・本学保健室共同研究

H25	大学、行政、地域の連携による、青年層への食育プログラムの開発
H26	島根県におけるITを活用した食育ネットワークシステムの構築
H27	食育の情報発信に関する研究-食育ホームページを活用した若い世代を対象とした食育の効果の検証1-
H28	食育の情報発信に関する研究-食育ホームページを活用した若い世代を対象とした食育の効果の検証2-
H29	食育の情報発信に関する研究-若い世代が県内各地の郷土料理及び家庭料理を調理-

健康栄養学科では、行政、地域と連携して若い世代への食育に取り組んでいます。

平成25年度は松江市と連携して、地域交流型の食育を試みました。学生から地域住民に、学生自身が企画した食育イベントを通して情報発信を行い、交流することにより、食生活の大切さを学び、学生から学生へと活動の輪を広げることができました。

平成26年度には島根県と連携し、若い世代の利用率の高いインターネットに着目し、食育ホームページを開発しました。島根県の食育ホームページ「食育の輪」ともリンクし、また、ピアエデュケーションの効果も期待し、記事は学生が執筆し、更新しています。アクセス方法の課題等もあり、中々利用者が増えないのが現状ですが、平成29年度に至る現在もこの取り組みは継続しています。

平成27年度には、栄養教諭と連携し、子供と大人が共に遊び、遊びから島根県の特産品について学ぶ食育教材「食育ボードゲーム」(すごろく)を作成しました。ボードゲームは、島根県を旅しながら、特産品を探していくストーリーです。家庭用・学校用と2種類制作し、対象や用途に応じて使い分けできるようにしました。食生活の背景にある様々な問題から、食に興味のない子どもが増えています。保育所や学校、学童、家庭、食育イベントで活用し、楽しく、食について学びました。



島根県産米「つや姫」の開発研究

島根県受託研究

代表 教授：名和田清子／健康栄養学科共同研究

H25-H26 島根県産「つや姫」の生産・販売拡大に向けた取り組み

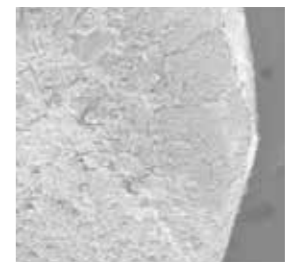
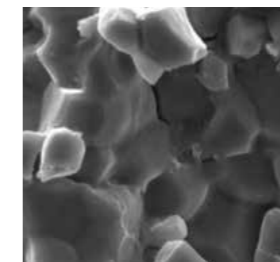
島根県受託研究ほか

代表 准教授：籠橋有紀子

主な連携先：島根県農産園芸課／島根県農業技術センター／島根大学生物資源科学部

H26	島根県産米の消費拡大を目指した特性分析～松江市西長江の栽培方法に着目して～
H27	島根県産米の特性分析～品種間および栽培方法の差異に着目して～
H27	有機栽培米の特性解明
H27	「つや姫」のおいしさの見える化に係る物性解析及びテクスチャーを中心とした官能試験
H28	有機栽培米の特性解明
H28	「つや姫」のおいしさの見える化に係る物性解析及びテクスチャーを中心とした官能試験
H29	有機栽培米の特性解明
H29	「つや姫」のおいしさの見える化に係る物性解析及びテクスチャーを中心とした官能試験

平成25年度から、島根県産つや姫の食味の科学的評価に取り組んでいます。平成26年度からは、食味ランキング(日本穀物検定協会主催)出品材選定のための島根米食味向上コンテスト選抜審査に協力し、島根県産「つや姫」は一般財団法人日本穀物検定協会主催の食味ランキングにおいて、2年連続最高ランクである「特A」を取得しました。また、平成27年度から有機栽培米の特性解明も合わせて行っています。平成28年度には、出雲市で開催された全国つや姫フォーラムで研究成果について講演を行い、各県から本取り組みへの反響がありました。平成29年度産米についても引き続き炊飯米の評価をしています。



西条柿加工食品の開発・研究

代表教授：赤浦和之

主な連携先：まる福農園 福岡博義

H25	西条ガキ熟柿ピューレ商業化生産のための温度管理技術の開発
H26	西条ガキ熟柿ピューレの省力化生産技術の開発
H26	西条ガキ冷凍熟柿および冷凍ドライ熟柿生産技術の開発
H27	西条ガキ熟柿ピューレを用いた食品の開発
H27	高クリプトキサンチン熟柿ピューレの生産
H28	西条ガキ熟柿ピューレを用いたドレッシングの開発

健康栄養学科食品学研究室では、島根県特産の西条柿を使った加工食品の開発に取り組んできました。熟柿ピューレ生産技術開発の成果を活用し、松江市の柿農家と共同で熟柿ピューレを用いた2種類の飲料、炭酸飲料「酢(し)まね柿サイダー」と柿果汁入り飲料「酢まね柿っこ」を商品化しました。

また、平成27年には、西条柿熟柿ピューレと松江市特産の秋鹿ゴボウを使ったレトルトカレー「美肌の国 キーマカレー」を開発し、松江市農水商工連携事業の支援を受けて商品化されました。当初はドレッシングの開発を進めていましたが、加熱によりピューレが凝固するという問題が起きたためドレッシングの開発はあきらめました。しかし、この熱による凝固という現象をとろみづけに利用できないかと考え、ピューレ添加のキーマカレーの開発に取り組み、どうにか商品化することができました。

この他、平成28年には、カキ粉末茶と西条柿ドライフルーツを商品化しました。冷凍熟柿と冷凍ドライ熟柿の生産技術はすでに確立しており、現在この技術を活用して新たなカキ加工食品の開発を行っています。



「しまね和牛」の開発研究

代表 准教授：籠橋有紀子／健康栄養学科共同研究

H25	しまね和牛を利用した高齢者向けの食肉開発の試み
H26	しまね和牛肉の食肉加工方法の検討について～加工材料の検討～

島根県受託研究ほか

代表 准教授：籠橋有紀子

主な連携先：島根県畜産技術センター／島根県農業協同組合石見銀山地区本部

H26	「新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産」に係る牛肉品質の評価
H27	「石見銀山和牛」の生産に係る牛肉品質の評価
H27	食肉の特性を生かした調理加工方法の検討
H28	「新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産」に係る牛肉品質の評価（牛肉の保水性と調理前後の物性・組織学的特性との関連調査）
H29	「石見銀山和牛」を用いた食品開発
H29	農畜産物の特性を生かした調理加工品に関する研究

しまね和牛の特性を実験的に解明し、活用を広げる取り組みを行っています。

H19年度より研究に着手し、H25年度以降はそれまでの成果を活かし、継続的に地域と連携しながら研究を継続しています。

1 食味研究

食肉(しまね和牛・ジビエなど)や島根米などを中心とした県内農産物の特性や美味しさを科学的に検証

2 教育活動を通じて地域と連携

地域の食材の良さを知り活かせる人材の育成

3 地域への発信

地域の農産物の特性を活かした調理加工方法の提供・商品開発

しまね和牛で地域活性化！

企画・商品化したもの

- 第一弾！ しまね三昧カレー
- 第二弾！ しまね三昧リエット
- 第三弾！ しまね三昧ジビエ・ガンボスープ
- 第四弾！ 石見銀山焼き



高齢者健康栄養研究（浜田市共同事業）

代表 教授：酒元誠治／健康栄養学科共同研究

H27	高齢者におけるMNA®-SFを用いた非災害時(平時)における栄養アセスメント結果
H27	浜田市高齢者の食事評価とEARカットポイント法を用いた不足者の割合
H27	浜田市高齢者の習慣的な身体活動状況
H27	食事バランスガイドの概念を用いた浜田市高齢者の食事評価

島根県産品を活用した商品開発研究

代表 准教授：籠橋有紀子／健康栄養学科学生との共同研究

H27	鳥獣対策研究を活かした地域への展開～「しまね三昧ジビエ・ガンボスープ」の商品化～
H28	(株)ローソンとの産学官連携によるスイーツ&ベーカリーの商品化
H28	鳥獣対策研究を活かした地域への展開～「まつえ宝刀鍋スープ」の商品化～
H29	鳥獣対策研究を活かした地域への展開～「しまね三昧ジビエ炊き込みご飯」の商品化～
H29	(株)ローソンとの産学官連携によるスイーツ&ベーカリーの商品化

全国的に活用が求められている野生鳥獣の有効利用を目指して、ジビエの機能性を理化学分析および官能評価により探索しています。平成27年度からは、松江市との連携により、猪肉の機能性を活かした食品開発に取り組んでいます。島根県産品を盛り込んだ商品には、研究室のロゴマークを掲載しPRしています。

また、健康栄養学科籠橋研究室での卒業研究の一環として県内農産物の研究→(株)ローソンへの発案・試作の依頼→連携して試作品を絞り込み→完成/島根県庁での試食会を経て、10月から中四国全域のローソンで販売されました。今年度は合計7品のスイーツとベーカリーを開発しました。



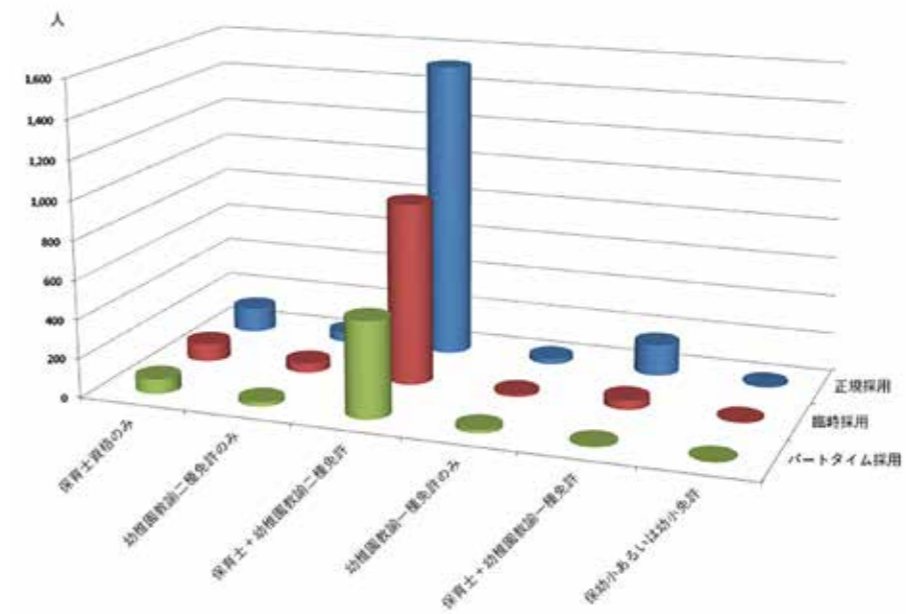
保育・幼児教育の地域課題研究

代表 教授：山下由紀恵／保育学科共同研究

H25	島根県における保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題
H25	保幼小連携教育体制における多様性の研究
H26	島根県の障害児発達支援における人的環境の課題—専門職研修プログラムの開発研究—
H27	島根県における子ども・子育て支援新制度開始の動向

平成25年度から27年度にかけて、保育学科は島根県の保育と幼児教育に関する、複数の共同研究に取り組みました。まず平成25年度には、新たな子ども・子育て支援制度が導入され保幼小連携教育体制が推進される中で、島根県における幼保の専門職はどのように雇用されているのか、雇用形態別、施設種類別、地域別に分析し、幼稚園教諭一種免許状取得者の雇用拡大の動向について、分析しました。また同じく平成25年度には、乳幼児期から小学校までの保幼小連携教育体制の多様性に焦点を当てつつ、「認可保育所」「幼稚園」の2タイプ保育から外れる地域の認可外保育(事業所内保育、施設内保育、その他無認可保育)の事例をもとに、特に小学校への接続に課題はないのか検討し、「島根県内の保育・教育の多様性」について協議を深めました。

平成26年度には、島根県内各市町村の教育委員会と保健福祉部局にご協力をいただいて質問紙調査を実施し、県内母子保健・保育所・幼稚園で実施されている就学前の障害児発達支援の動向と課題を調査し、さらに平成27年度には、放課後の子育て支援施策を中心に県内児童館・児童クラブ関係者と協議を深めるなど、常に学科全体で、県内の多様な保育・幼児教育課題に対する探究を深めてきています。



2013(平成25)年度の島根県における保育専門職の免許資格・採用条件別人数

ふるさと体験に基づく教育の研究

① 民話蘇生と子どもたちへの伝承

代表 教授: 山下由紀恵 / 保育学科・総合文化学科共同研究

主な連携先: 本学昭和50年度卒業生 / 益田市立匹見中学校・小学校 / 島根大学名誉教授 田中瑩

H25 民話蘇生研究—「島根県美濃郡匹見町昔話集稿・道川地区」の復刻と再生—

H27 民話蘇生研究—匹見の民話の伝承—

② 「ふるさと教育」地域モデル研究(益田市共同事業)

代表 教授: 山下由紀恵 / 保育学科・総合文化学科共同研究

主な連携先: 益田市教育委員会 / 益田市保育研究会

H25-H26 「ふるさと教育」生涯モデル—地域資源と協同的体験を保育教育課程に生かす

H27-H28 保小中連携によるwebシーズマップを活用した「ふるさと教育」の開発

H28-H29 保小中地域連携による「ふるさと基盤教育」の実証研究

これらの「ふるさと体験」に基づく保育教育の研究は、益田市をフィールドとして、平成25年度から29年度まで実施されてきています。益田市匹見町の昭和50年頃に語られた民話の伝承活動は、総合文化学科岩田教授の民話保存研究とも連動しているものです。

益田市保育研究会と益田市教育委員会との共同研究では、幼児期からの地域での子どもの協同的な体験活動が、幼年期から中学生までの、「生きる力」の蓄積的な育成につながるよう、12の中学校区別に協議検討を進めてきています。異なる施設種・学校種の保育者や教諭の協議を進めていくうえで、情報と子ども理解の共有が何より重要であり、そのためのツールとして大学独自のWebシーズマップを制作するなど、「ふるさと体験」を教育につなぐ仕組みづくりを共同で研究してきています。



保育・発達支援ツール開発

① 「うた遊び手帳」の開発研究

代表 教授: 山下由紀恵 / 保育学科教員、松江市立幼稚園・保育所長共同研究

H28 保育・発達支援における「うた遊び手帳」導入研究

H29 保育・発達支援における「うた遊び手帳」導入とその効果

② 専門職をつなぐ「相談支援手帳」地域モデル研究

代表 教授: 山下由紀恵

主な連携先: 川本町健康福祉課 / 川本町教育委員会 / 川本町立川本小学校 / 川本町保育研究会

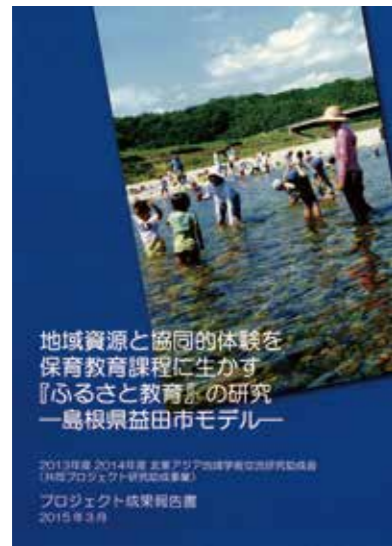
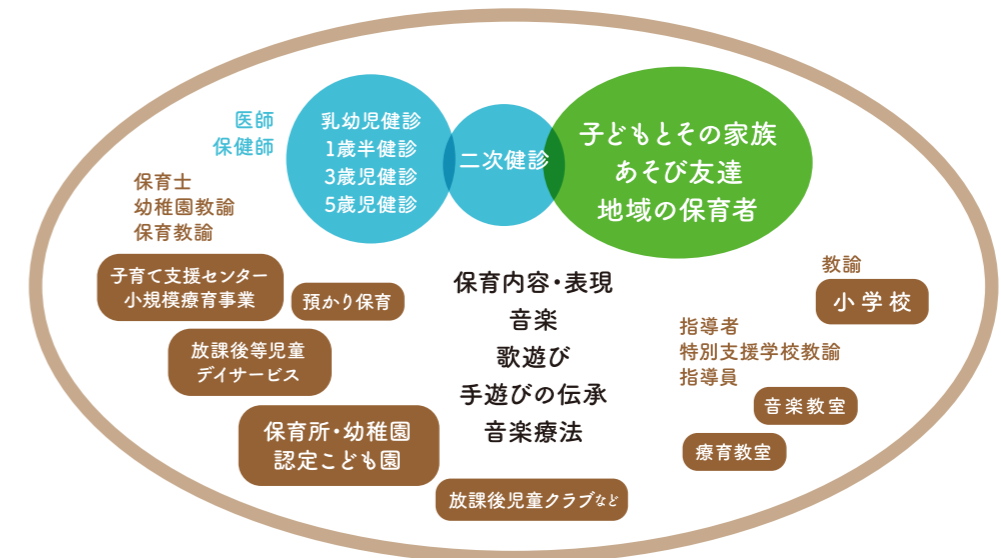
H27-H29 川本町におけるインクルーシブ相談支援ファイル開発プロジェクト

就学前の子どもの発達には、家庭の保護者とともに周産期から就学までのさまざまな専門職が関わり、情報をバトンのように受け渡ししながら、それぞれの発達段階の支援をつないでいます。発達に困難を抱えている特別な支援を必要とする子どもほど、数多くの専門機関で支援を受け、就学に至っています。これらの複数の専門職と家庭をつなぐ「支援の一貫性」をめざして、保護者が持ち歩きやすい「支援手帳」の開発研究を行っています。

川本町の「ゆうゆう手帳」は、川本小学校通級指導教室と川本教育委員会の地域課題意識から、生まれました。専門機関から離れたところで、母子保健と保育所と保護者が、子どもの発達を見通しをもって見守るためのツールとなっています。「うた遊び手帳」は、保育学科教員と松江市立保育所長・幼稚園長の方々との共同研究となっています。うた遊びで「親と子ども」「子どもと子ども」の保育教育をつなぐことができたらと考えています。



うた遊びでつなぐ保育教育



文化資源・アートの多様性探究

① 山陰の美－「さんいんびより」写真集

代表 准教授：福井一尊

H26 山陰の特徴景色を題材とした写真作品による地域文化資源意識の定着に向けて
～島根県・鳥取県全38市町村の今日的姿を絵画的に撮影した作品集の印刷・製本および啓発活動から～

これまで自然や歴史的建造物の美が「山陰の美」として知られ、語られてきました。そのことによって見えにくく、感じられにくいのですが、我々の生活の中に、現在の山陰の美は確かに色鮮やかに存在しているのです。平成25年度、山陰全ての町に宿る「美」を絵画的に切り取った写真展をグラントワ(益田市)など山陰全域4会場で開催し、翌年度には写真集「さんいんびより」を刊行しました。



② 障がい者アート作品展による研究

代表 准教授：福井一尊

主な連携先：島根県／島根県社会福祉協議会／岡山県立美術館

H26 障がい者との共生社会における美術館鑑賞のあり方についての研究

H29 島根県における障がい者アート作品による障がい理解拡充に向けた研究

県内全域から作品が寄せられる「島根県障がい者アート作品展」(平成29年度 短期大学部共催)の公開審査において、福井准教授が審査委員長を務めています。本審査会は関係施設職員の研修の場としても位置づけられており、県内関係者の意識、技術の向上の機会として定着しつつあります。出品作品は毎年、島根県立美術館にて公開され、また作品集を発刊し、アールブリュット(生の芸術)の魅力と可能性を広く紹介しています。

平成26年度には岡山県立美術館において、視覚障がい者も楽しめる展覧会「目の目、手の目、心の目」が開催され、出品作家として福井准教授が参加し、多くの来場者に美術鑑賞を楽しんでもらいました。



社会的養護の推進に関する開発研究

代表 准教授：藤原映久

主な連携先：島根県(中央児童相談所)／松江地区里親会

H25	島根県版児童虐待アセスメント用紙の有効利用に関する研究
H27	児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実施
H28-H29	安心・安全な児童福祉施設環境の構築に向けた連携
H29	里親向け養育支援研修会に関する実践的研究

社会的養護とは、保護者のない子どもや保護者に監護させることが適当でない子どもを公的責任で保護・養育したり、養育に困難を抱える家庭の支援を行うことです。特に、児童虐待などにより家庭での生活が困難な子どもたちは、里親や児童福祉施設で生活することになります。しかし、子どもたちにとっては、いかなる理由であれ、家族・家庭、地域と離れることには、苦痛と不安が伴います。



だからこそ、ある子どもが社会的養護の対象となるか否かの判断は慎重かつ確になされる必要があります。つまり、児童虐待をはじめとした子どもの状態・状況の正確なアセスメントが重要なのです。平成25年度の研究はそのためのものでした。

また、子どもたちが里親宅や児童福祉施設での生活を始めた場合、その生活の質は新たな養育環境の質に左右されます。もちろん、現状においても里親の皆様、施設職員の方々が高い志も持って真剣に養育に取り組んでおり、子どもたちの福祉に大きく貢献しています。しかし、心の傷やそこから生じる様々な不適応行動への治療的関わりを要する子どもたちが増えていると言われます。社会的養護の場において、預かった子どもたちの養育に困難を抱えることは希ではありませんし、里親の皆様や児童福祉施設が社会的に求められる専門性は年々高まってきています。平成27年度～29年度にかけて行った一連の研究は、そこに応えるためのものでした。

日本の社会的養護は制度的にも発展途中であり、今後も大きく変わろうとしています。引き続き、社会的養護の理念である「子どもの最善の利益のために」を胸に、現場との協働を進めていきたいと考えています。



「古事記」「出雲風土記」の探究

① 「古事記」「出雲風土記」作品研究

代表 講師：山村桃子

H25-H29 『出雲国風土記』研究

H24-H29 『古事記』作品研究

② 「古事記」「出雲風土記」の英訳研究

代表 教授：松浦雄二／総合文化学科共同研究

連携先：島根県立大学短期大学部名誉教授 藤岡大拙

H23-H25 『古事記』の英訳研究と情報発信

H26-H29 『出雲国風土記』の英訳研究

島根県「古事記1300年」事業に合わせ、藤岡大拙氏と松江キャンパス教員のコラボによる研究プロジェクト「出雲神話翻訳研究会」を、本学の「椿の道アカデミー」公開講座の一つとして平成23年度に発足させ、古事記の英訳を試みたホームページも開設しました。時に面白おかしい、親しみ深い出雲弁を交え、その奥に深い学識と郷土への愛情を湛えた藤岡氏の語りは、3年間に亘り好評を博し、その続編として、平成26年度から始まったのが、「古事記」から「風土記」へと神話の舞台を移した、「風土記の語る神話」講座です。それはさらに、平成28年度からの「古代出雲人の信仰世界」、平成29年度の「出雲学概論」講座へと引き継がれ現在にいたっており、これらの成果を元に、継続的に英訳を続けて、日本の貴重な遺産である古代出雲神話の世界を広く知っていただけのように、努力を重ねていきたいと思っています。



The translation of the *Fudoki* text

Here is the story of how this district came to be called "Ou":

Yatsuka-mizuomizuno-no-mikoto, who drew and moved the lands near with strong pulls, once said, "What a young land Izumo, the land of issuing clouds, is, whose shape is like a strip of cloth! It was made too small in the first creation. Well then, I will seam some lands together and make the land bigger," and further, "I wonder if there might be any spare land in the direction of the Cape of *Shiragi* far away, and do I see there is spare land there," said the deity.

So he took a hoe as broad and flat as a young maiden's chest, and cut the spare land apart as if cutting through the gills of a huge sea bass and severing its head, or like a typhoon cleaving its violent way through the autumn pampas grass. Then he hitched a strong three-ply rope to it; and saying, "Come, land! Come, land!" did he struggle to draw it near; as you would struggle to pull down frost-damaged vines from the trees, or as you would struggle to row a boat upstream. And the land he drew near and seamed together extended as far east as *Kozu*, and as far west as the August Cape of *Kizuki*. The post used for holding the land in place is Mt. Sahime, which marks the border between the land of *Iwami* and the land of *Izumo*. The remains of the strong rope he used formed *Naga-hama* beach in *Sono*.

地域資源に基づく英語教育の開発研究

① 島根の伝統工芸の理解と英語による情報発信

代表 准教授：ラング・クリス

H26 島根の伝統工芸の体験と英語による情報発信

H26 島根伝統工芸の体験学習と意識変化の研究

島根の伝統工芸の理解と英語による情報発信を目的として、「出雲かんべの里」の工房にて、本学の学生が伝統工芸の作成過程を見学・体験し、講師へインタビューを行った内容を元に、日本語と英語のバイリンガルで冊子とブログを作成し、国内外へ向けて情報発信を行いました。

② 小中学校の英語教育研究

代表 教授：小玉容子／総合文化学科共同研究

H27 小学校での「英語読み聞かせ」活動の英語学習に対する効果と、小・中学校における英語多読の導入の方法および効果

③ フォニックス教材開発

代表 准教授：ラング・クリス／総合文化学科共同研究

H28 フォニックス教材開発及び作成

小学校での外国語活動の必修化にともない「読む」「書く」などの技能も指導内容に加わるため、文字指導に対応できる英語教材本ABC's of SHIMANEを発刊しました。島根県内の観光地、地域の特産品、神話等に関連する語を集めました。発音練習にもつなげることができるように音声教材もウェブ配信しています。



「読み聞かせ」の研究と実践

代表 教授：岩田英作／おはなしレストランライブラリー共同研究

H26 大学附属の児童図書専門図書館の調査 -おはなしレストランライブラリーの有効活用に向けて-

H27 「読みメン」の実態調査~男性の育児参加の向上をめざして~

H28 父親による読み聞かせの実践

島根県立大学松江キャンパスで読み聞かせを取り入れた授業を始めて10年になるのを機に、北海道武蔵女子短期大学児童図書室、京都造形芸術大学子ども図書室、鳴門教育大学附属図書館児童図書室など大学附属の児童図書館5館を視察し、本学児童図書館「おはなしレストランライブラリー」の有効活用について考察しました。視察を通して、①地域の子育て支援の場、②大学の教育・研究の場、③大学と地域の交流の場、④学外諸機関との地域連携の場の4つの機能の重要性を確認できました。

「読みメン」は、父親(男性)による絵本の読み聞かせを啓発する目的で、本学と島根県が協力して進めている取組です。実際に父親の読み聞かせの実態はどうなっているのかを調べるために、松江市内の約4000家庭を対象にアンケート調査を実施し、さらには父親数名から聞き取り調査を行いました。その結果、半数の家庭で週の半分以上読み聞かせを行い、母5割、父3割の割合で読み聞かせを行っていることなどが明らかになりました。一方で、読み聞かせをしない理由として、仕事や育児の多忙感をあげる人が多いことも気になる点でした。



島根県における伝説と民話の研究

① 島根県における伝説の研究

代表 講師：山村桃子

H27 島根県における伝説の研究

② 島根の民話の保存と整理

代表 教授：岩田英作／総合文化学科学生との共同研究

連携先：島根大学名誉教授 田中瑩一

H27 島根の民話の保存と整理 -石見地方の民話の語り手について-

H28 島根の民話の保存と整理 -ふるさと郷育(教育)への活用に向けて-

今から約40年前、島根県立大学名誉教授田中瑩一先生を中心として、島根県の出雲地方、石見地方、隠岐地方のそれぞれに伝わる民話の採集が行われ、現在、約500本のテープの中に6000話近くが保存されています。しかしながら、テープの劣化も年々進んでおり、永久保存のためテープのデジタル化を急ぐ必要があります。

そこで、平成25年度より、田中先生の協力を得ながら民話の語り手等に関する情報の整理とテープのデジタル化に着手し、平成27年度には、石見地方の民話のデジタル化を完了しました。

平成27年11月には、本学の山下由紀恵教授の尽力により、島根県益田市匹見町の子供たちに、かつてその土地で田中先生らが採取した民話をCDにして届けることができました。子供の中には、民話を語った男性のひ孫にあたる子供もいて、声による初の対面が実現しました。



島根県における観光の研究

① 雲南市吉田町における観光振興

代表 教授:工藤泰子

連携先:一般社団法人鉄の歴史村地域文化研究所

H25 雲南市吉田町における観光振興

「観光資源学」(1年選択科目)の授業にて、吉田町をフィールドにして、島根が誇るたたら製鉄の歴史と文化を活かした観光振興について学習する機会を設けています。この取り組みは、四大化後も「地域資源と観光」の授業として継続していきます。

② 松江市における観光の研究

代表 教授:工藤泰子

連携先:松江市史料編纂室/NPO法人松江ツーリズム研究会

H25 戦前松江の観光に関する研究

H27 松江市の観光振興に向けた取組み -地域志向科目における実践-

H27 戦後復興期における松江の観光に関する研究

H28 戦後松江における観光行政の展開

教育面としては、松江ツーリズム研究会と連携し、2つの取り組みを行いました。一つは「観光まちづくり学」(2年選択科目)の授業にて、松江市内の観光施設(松江カラコロ工房、興雲閣)の訪問者のアンケート調査(平成26年~29年度実施)。もう一つは、同研究会理事長(山本素久氏)のご指導を受け、「観光文化ゼミ」の履修生が松江城でボランティアガイドを行い、案内したお客様からは大変喜んでいただきました。

個人の研究としては、近代以降の松江市の観光について、小泉八雲、国際文化観光都市建設法、不昧公などをテーマとした研究を継続して行い、学内外での公開講座、学会等で発表しました。研究成果の一部は『松江市史』に掲載予定です。



ハーン研究と地域貢献

代表 教授:小泉凡

連携先:松江市/NPO法人松江ツーリズム研究会

H21-H29 松江の文化資源を社会に活かす取り組み -ハーン研究と地域貢献-

ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)を島根の地域資源として観光文化の振興や文化の創造に活かす実践研究に取り組んでいます。NPO法人松江ツーリズム研究会と連携した「松江ゴーストツアー」は、ハーンが再話した怪談ゆかりの地を語り部の話を聞きながら歩く夜のツアーで、9年間で316回実施し、5172名が参加する(2017年12月末)人気の着地型観光プランとして定着しています。近年では参加者の7割以上が県外者です。また、2017年は日本とアイルランドの外交関係樹立60年を記念し、小泉八雲記念館における企画展「文学の宝庫アイルランド」の実施、また7月にアイルランド3都市で、茂山千五郎家によるハーン作「ちんちん小袴」の新作狂言公演を、11月には松江で凱旋公演を行いました。「小泉八雲朗読のしらべ」「松江怪談談義」も継続的に開催し、文学や怪異の資源化を探究しています。



しまね地域共生センター 2013-2017 COC経過報告

平成30年1月 センター長：山下由紀恵

島根県立大学短期大学部における地(知)の拠点整備事業、いわゆるCOC(Center of Community)事業は、文部科学省により平成25(2013)年に採択され、5か年間の事業としてスタートしました。その後、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に移行していますが、「地域研究と教育」vol.6では、これまでの5か年間の取り組みを振り返り、島根県立大学松江キャンパスの今後の地域貢献の課題を探っておきたいと考えています。

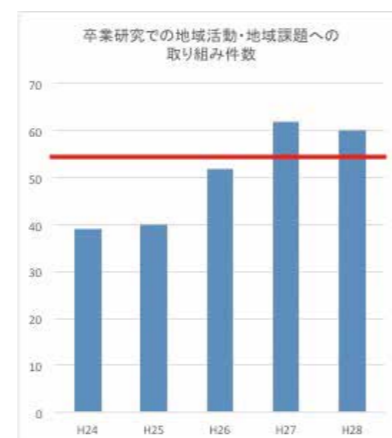
本学のCOC事業は、平成25(2013)年当時の島根県立大学(浜田キャンパス・出雲キャンパス)と島根県立大学短期大学部(松江キャンパス)の教育・研究・社会貢献活動の連携を強化し、県全域の自治体、企業、NPO等と協働することで、人口減少・高齢化・過疎化という地域共通問題へ対応することを目的としていました。地域と共に将来を担う人材を共育し、住み良い地域を共創し、持続可能な共生社会の実現を目指す「縁結びプラットフォーム」を構築することが共通目標でした。

その中で松江キャンパスは、「健康・保育・文化・観光」の専門分野を活かした活動を目的として、キャンパス・プラットフォーム「しまね地域共生センター」を設立し、このセンターを拠点として、1)「地域志向科目による「地域志向教育」の推進、2)本学学生の自主活動と卒業研究における「地域活動」「地域課題への取り組み」推進、3)専任教員と小規模高齢化集落の課題解決を目指す地域専門職者との共同研究促進、4)その共同研究成果を含む履修証明プログラムの開発と研修、を実施してきました。以下、平成30(2018)年1月現在のそれぞれの経過報告と、各領域での課題をまとめておきます。

教育 松江キャンパスにおける「地域志向教育」

平成25(2013)年当時、松江キャンパスでは、3学科全てについて、「卒業研究」で地域課題に取り組むことが多く、全卒業研究の約30%に上っていましたが、地域課題を個別専門的に学ぶ前の、基礎的教養科目としての「地域志向」科目がなく、知識・技能が一局面に偏りやすい、という問題がありました。そこで、COC期間中に、全3キャンパスの学びのステップとして基礎科目に広い視野で地域課題を学修する科目「しまね地域共生学入門」を導入し、さらに専門の「地域志向」を含む科目を履修して卒業研究へ至るといふ、「地域志向教育」課程の構築が、計画されました。

「地域志向」を含む科目は、平成25(2013)年の前年度実績は松江キャンパス全体で22科目でした。図の赤線で示す通り、5か年後の事業終了時の目標を25科目に定めて事業を推進し、平成26(2014)年度以降は、35科目以上の「地域志向」科目が既設されています。地域活動を含む卒業研究は、59件を目標に定めていましたが、「地域志向」科目が増加した翌年の平成27(2015)年度と平成28(2016)年度の卒業研究は松江キャンパス全体で60件に達していました。



「授業科目以外の各種地域活動への参加者人数」については、平成24(2012)年実績では322人、目標は330人でしたが、平成25(2013)年度実績から目標値を超え、平成27(2015)年度実績では340人、平成28(2016)年度は397人に上っています。松江キャンパスの入学定員が230人で、2年間460人であることを踏まえると、これらの参加者数延べ人数は、松江キャンパス学生の意欲的な地域活動の取り組みを示しているといえるでしょう。

「授業科目以外の各種地域活動への参加」「ボランティア活動」については、COC事業の報告書である「地(知)の拠点整備事業成果報告書(地域連携活動報告書)」に具体的内容を記載報告してきました。「授業科目以外の各種地域活動への参加」については、この報告書の「松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業」および「松江キャンパス教育機関との連携事業」の一覧に掲載した本学COC事業地域貢献活動に参加した学生数をあげています。具体的には、教員が地域と連携して実施する研究に授業や卒業研究以外の自主活動で参加する、教員が地域と一体的に行う観光文化等のイベント運営に自主活動で参加する、教員が教育機関と連携して実施する食育・読み聞かせ等の活動に自主的に参加する、などの活動でした。

ボランティア活動としては、ボランティアサークル「volcano(ボルケーノ)」と地域自治体との交流などの活発な取り組みなどがあり、平成27(2015)年度島根県「県民いきいき活動奨励賞(ユース部門)」を受賞するなど、活動が活発化しています。

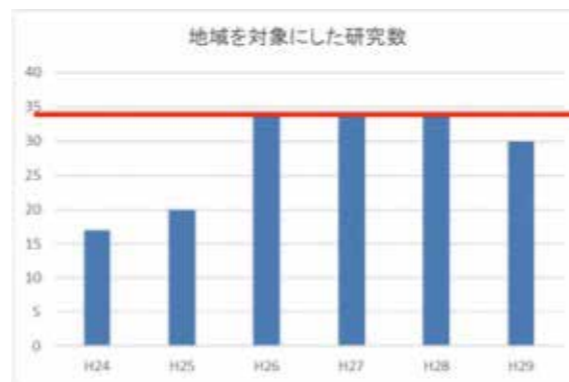
研究 松江キャンパスにおける「地域志向研究」

松江キャンパスの地域志向研究では、キャンパス・プラットフォーム「しまね地域共生センター」において、地域専門職との共同研究・専門研修、教員の社会貢献活動を集約し、大学の「地域志向」研究機能の向上を目指してきました。

その一環として、本学地域研究を公表する「しまね地域共生センター紀要」を平成25(2013)年度準備号から発行し、平成29年度第4号に至っています。本冊子、研究総覧「地域研究と教育」も毎年度発行しVol.6に至っています。

事業計画に挙げた「研究連携協議会」を毎年度末に開催し、「しまね地域共育・共創研究助成金」採択研究の成果を中心に一年間の地域志向研究のまとめと発表を行ってきました。平成29(2017)年度までに、紀要・協議会等の研究発表において、筆頭著者・共著者に地域専門職者が参加しており、地域と一体的に取り組む研究が萌芽的に育ってきています。

「地域を対象にした研究数」は、下図に示す通り、平成24(2012)年度実績では17件であり、最終年度達成目標は34件でしたが、平成26(2014)年度実績からこの目標値を達成しており、平成28(2016)年度まで毎年度34件の地域研究を実施していました。その研究テーマは、本冊子「地域研究と教育」vol.6巻末に示すとおりでありこれらの地域研究の中から、COC期間中に継続して研究費を獲得して実施された研究、学科等の組織で共同で推進した研究、学外の地域連携先が明確である研究について、本冊子の記事としてまとめています。平成29(2017)年度には、下図に示す通り30件と減少しましたが、これは新学部設置前の大学運営の多忙さが影響しているのではないかと考えられます。

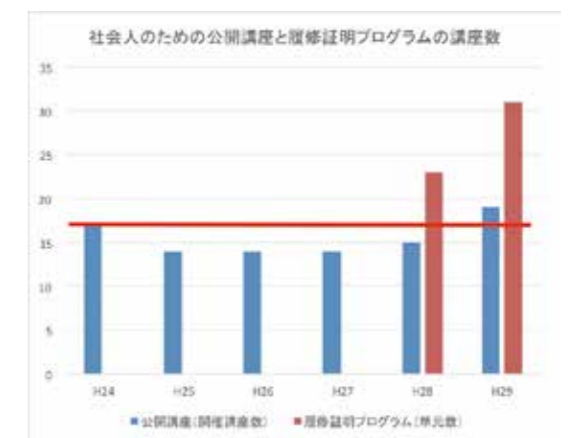
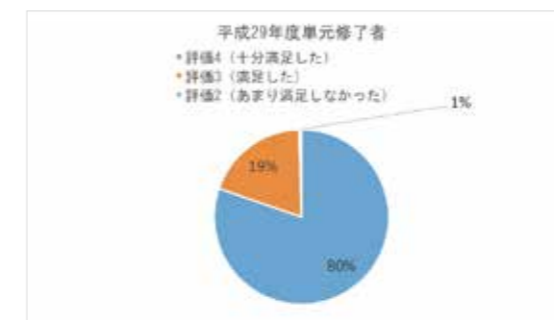


社会貢献 新たな「社会人の学び」に向けて

松江キャンパスでは、生涯学習の拠点としてかねてより公開講座「椿の道アカデミー」を開設してきましたが、下図の通り、平成24(2012)年度の開催講座数は17講座であり、COC事業開始時の最終目標は、この17講座の維持でした。20年以上続いている公開講座「椿の道アカデミー」でしたが、受講者の高齢化とともに、平日の日中に大学を訪れることができる世代人口が少なくなり、大学として生涯学習に貢献できる領域を再検討すべき段階に入っていました。

そこで、COC事業ではこの状況を踏まえて、卒業生を中心とする栄養士・管理栄養士・保育士・幼稚園教諭・図書館司書・学校司書等の人材養成を取り上げ、社会人向けの「履修証明プログラム」の制作と運用をすすめてきました。島根県立大学短期大学部は、平成19(2007)年度に文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業に採択され、島根県健康福祉部、松江市・出雲市・浜田市・多領域職能団体と連携して、県内外「子育て支援」専門職者研修を実施した実績をもっています。平成21(2009)年度までにこの研修事業の基礎講座において実人数1,256人の専門職が受講され、島根県内の、特に中山間地域・離島の専門職の強い再教育ニーズを証明した結果となっていました。これらの実績を踏まえ、多忙な現場専門職者の教育アクセスを可能にするための、ICT・通信教育環境をこの事業で整備し、新たな「社会人の学び」を構築することが、COC事業の目標でした。

実際には、下図の通り平成24(2012)年度の公開講座数を上回る単元を開設し、e-ラーニング体制も構築しましたが、現役の社会人の学び直しには、いくつかの課題があることも浮かび上がってきました。「履修証明プログラム」は学校教育法上120時間以上のコースにより成り立っていますが、本学では、部分的履修を可能にする「単元」からコースを構成しました。結果的には、この単元履修で、しかも免許更新等に利する単元は受講者が多いが、120時間全体を履修することは極めて困難であること、とくにe-ラーニングには、受講者個人のICT・通信環境が大きな制約となっていること、などが課題として見えてきています。パソコンからのネット利用ではなくモバイル端末からのe-ラーニングを可能にするなどの改善を行い、下図の通り平成29(2017)年度は受講者の満足度を上げることができました。平成30(2018)2月には、3名の方が2つのコースの「履修証明プログラム」120時間を修了されました。



展望 「マイスター制度」の構築－新たな地域貢献人材の育成に向けて

平成25(2013)年度に開始したCOC事業は、島根県立大学と島根県立大学短期大学部の共同申請であり、4大部の浜田キャンパス・出雲キャンパスと、これまで短期大学部のみであった松江キャンパスの共同で、大学教育改革を進めるものでした。

そのうちの一つの教育改革として、1年前期共通必修科目「しまね地域共生学入門」を開設し、どのキャンパスの学生であっても全員が「地域共生学」の学修を開始する体制へ移行したことは、大きな変革でした。平成28(2016)年度から、短期大学部でも「しまね地域共生学入門」の必修授業が開始され、遠隔地授業システムAnycastにより、3キャンパスの学生が一堂に会して授業を受けている体制となっています。

さらにもう一つの教育改革が、地域貢献人材の育成プログラムとしての「しまね地域マイスター制度」の導入です。これは、島根県立大学の4年制の課程において、学部別に「地域課題解決」のための人材育成に資する科目をマイスター履修課程として位置づけ、基準に達した学生に卒業時に「しまね地域マイスター」の称号を与えるというプログラムです。マイスターという称号には、新たな社会貢献人材として地域で活躍してほしいというCOC事業の期待が込められています。松江キャンパスも、平成30(2018)年度に開設される4年制課程「人間文化学部」において、「しまね地域マイスター履修課程」を設けることになっています。松江キャンパスは、平成25(2013)年度からの5か年間の事業を経て、新たな人材育成ステージへ入ることになります。

松江キャンパスはこれまで、学生教育のための連携として、「一般社団法人鉄の歴史村地域文化研究所」「NPO法人松江ツーリズム研究会」「NPO法人あしぶえ」「出雲市地域づくりアドバイザー」「奥出雲町役場地域振興課」「松江市政策部」「松江教育委員会」「松江健康福祉部」「松江産業観光部」「松江発達・教育相談支援センター」等々の代表者と「教育連携協議会」を組織し連携を深めてきました。教員の研究においては、「浜田市」「邑南町」「川本町教育委員会」「益田市教育委員会」「益田市匹見町」「NPO法人松江ツーリズム研究会」「松江観光協会」「島根県」「島根県畜産技術センター」「島根県農業技術センター」「島根県農業協同組合」等々との共同研究を実施してきました。今後はさらに、平成30(2018)年度以降の新たな「しまね地域共生センター」において、地域貢献人材の育成に向けた、地域連携協力体制を構築していきます。



2013-2017 COC経過報告

地域志向研究活動一覧 (平成25～29年度)

学科名	vol.6 掲載頁	研究タイトル(研究年度) 研究助成等	学内研究者 ※役職名は該当最終年度現在 連携研究者(機関・協力者)
健康栄養学科	2	食育の情報発信に関する研究 -若い世代が県内各地の郷土料理及び家庭料理を調理-(H29) 島根県受託研究	名和田清子教授/石田千津恵助教/世良希美嘱託助手 島根県健康推進課/島根県食生活推進協議会
	3	有機栽培米の特性解明(H29) 島根県共同研究・学術教育研究特別助成金	籠橋有紀子准教授 島根県農業技術センター 山本朗主任研究員
	5	「石見銀山和牛」を用いた食品開発(H29) 教員個人研究費/JA石見銀山受託研究	籠橋有紀子准教授 島根県農業協同組合石見銀山地区本部 土江博
	6	鳥獣対策研究の成果を活用～しまね三味ジビエ炊き込みご飯の開発～(H29) 教員個人研究費/まつえ農水商工連携事業	籠橋有紀子准教授 まつえ農水商工連携事業推進協議会・宮本食肉店
	2	食育の情報発信に関する研究 -食育ホームページを活用した若い世代を対象とした食育の効果の検証2-(H28) 学術教育研究特別助成金(共同研究)/島根県受託研究	名和田清子教授/石田千津恵助教/世良希美嘱託助手 島根県健康推進課
	4	西条ガキ熟柿ビューレを用いたドレッシングの開発(H28～) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	赤浦和之教授 まる福農園 福岡博義
	5	農畜産物の特性を生かした調理加工品に関する研究(H28～H29) 島根県共同研究/教員個人研究費	籠橋有紀子准教授 島根県産業技術センター 永田善明科長・大渡康夫主任研究員
	5	「新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産に係る牛肉品質の評価(牛肉の保水性と調理前後の物性・組織学的特性との関連調査)(H28) 島根県受託研究	籠橋有紀子准教授 島根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員
	6	(株)ローソンの産学官連携によるスイーツ&ペーカリー商品化(H28～) 学術教育研究特別助成金研究/教員個人研究費	籠橋有紀子准教授 株式会社ローソン/島根県政策企画監室
	6	鳥獣対策研究を活かした地域への展開 ～「まつえ宝刀鍋スープ」の商品化～(H28～) 教員個人研究費/まつえ農水商工連携事業	籠橋有紀子准教授 まつえ農水商工連携事業推進協議会
		島根県産食肉の特性分析～調理加工品の食感についての検討～(H28) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	籠橋有紀子准教授/石田千津恵助教/川谷真由美助手
	2	食育の情報発信に関する研究 -食育ホームページを活用した若い世代を対象とした食育の効果の検証1-(H27) 学術教育研究特別助成金(共同研究)/島根県受託研究	名和田清子教授/石田千津恵助教/世良希美嘱託助手 島根県健康推進課
3	有機栽培米の特性解明(H27～H28) 教員個人研究費/島根県共同研究	籠橋有紀子准教授	
3	「つや姫」のおいしさの見える化に係る物性解析及びテクスチャーを中心とした官能試験(H27～H29) 島根県受託研究	籠橋有紀子准教授 島根県農産園芸課/島根県農業技術センター 田中互専門研究員	
3	島根県産米の特性分析～品種間および栽培方法の差異に着目して～(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	籠橋有紀子准教授 島根大学生物資源科学部 山岸主門准教授	
4	西条ガキ熟柿ビューレを用いた食品の開発(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	赤浦和之教授	
4	高クリプトキサンチン熟柿ビューレの生産(H27) 学術教育研究特別助成金研究	赤浦和之教授	
5	食肉の特性を生かした調理加工方法の検討(H27) COCLしまね地域共生・共創研究助成金研究	籠橋有紀子准教授 島根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員	
5	「石見銀山和牛」の生産に係る牛肉品質の評価(H27) 島根県農業協同組合石見銀山地区本部受託研究	籠橋有紀子准教授 島根県農業協同組合石見銀山地区本部 土江博	
6	鳥獣対策研究を活かした地域への展開 ～「しまね三味ジビエ・ガンボスープ」の商品化～(H27～) 学術教育研究特別助成金研究/まつえ農水商工連携事業/教員個人研究費	籠橋有紀子准教授 まつえ農水商工連携推進協議会/カレー工房ダーニャ/ 島根大学教育学部附属小学校	

健康栄養学科	6	高齢者におけるMNA®-SFを用いた非災害時(平時)における栄養アセスメント結果 ～浜田市の高齢者健康・栄養調査から～(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究 学術教育研究特別助成金研究	酒元誠治教授/川谷真由美助手/三木成美コーディネーター 島根県浜田市
	6	浜田市高齢者の食事評価とEARカットポイント法を用いた不足者の割合(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究 学術教育研究特別助成金研究	酒元誠治教授/川谷真由美助手/三木成美コーディネーター 島根県浜田市
	6	浜田市高齢者の習慣的な身体活動状況(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究 学術教育研究特別助成金研究	酒元誠治教授/川谷真由美助手/三木成美コーディネーター 島根県浜田市
	6	食事バランスガイドの概念を用いた浜田市高齢者の食事評価(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究 学術教育研究特別助成金研究	酒元誠治教授/川谷真由美助手/三木成美コーディネーター 島根県浜田市
	2	島根県におけるITを活用した食育ネットワークシステムの構築(H26) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	名和田清子教授/安藤彰朗教授/直良博之教授/ 石田千津恵助教/水珠子助教/川谷真由美助手/ 片寄(三木)成美コーディネーター/手島由美子主任看護師
	3	島根県産米の消費拡大を目指した特性分析 ～松江市長江の栽培方法に着目して～(H26) 教員個人研究費	籠橋有紀子准教授 島根大学生物資源科学部 山岸主門准教授
	4	西条ガキ熱柿ビューレの省力化生産技術の開発(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	赤浦和之教授 まる福農園 福岡博義
	4	西条ガキ冷凍熟柿および冷凍ドライ熟柿生産技術の開発(H26) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	赤浦和之教授
	5	「新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産」に係る牛肉 品質の評価(H26～H27) 島根県受託研究	籠橋有紀子准教授 島根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員・成相伸久科長
	5	しまね和牛肉の食肉加工方法の検討について～加工材料の検討～(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	籠橋有紀子准教授/川谷真由美助手 島根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員
		有機農業推進のための技術開発プロジェクト 将来の島根農業を支える商品づくりプロジェクト(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	名和田清子教授/健康栄養学科教員 島根県農産園芸課/島根県農業技術センター
		国体候補高校生に対する食事調査・栄養診断・栄養指導事業(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	酒元誠治教授
	2	大学、行政、地域の連携による、青年層への食育プログラムの開発(H25) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	名和田清子教授/川谷真由美助手/小柏道子教授/ 坂根(石田)千津恵助教/手島由美子主任看護師 松江市 片山郁子・松尾玲子/株式会社おいしいハート 桶谷恵美子
	3	島根県産「つや姫」の生産・販売拡大に向けた取り組み(H25～H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究/島根県受託研究	名和田清子教授/健康栄養学科 島根県農産園芸課/島根県農業技術センター
	4	西条ガキ熱柿ビューレ商業化生産のための温度管理技術の開発(H25) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	赤浦和之教授
	5	しまね和牛を利用した高齢者向けの食肉開発の試み(H25) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	籠橋有紀子准教授/坂根(石田)千津恵助教/水珠子助教 川谷真由美助手 島根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員・成相伸久科長・ 高野彰文主任研究員
	「伝え継ぐ日本の家庭料理」島根県調査研究(H25～) 学術教育研究特別助成金研究	石田千津恵助教 島根県健康推進課/島根県食生活改善推進協議会	
	加熱と高速攪拌が西条ガキ熱柿ビューレのビタミンC含量および抗酸化能に 及ぼす影響(H25) 学術教育研究特別助成金研究	赤浦和之教授 まる福農園 福岡博義	
	早期出荷された牛肉の品質評価手法の検討～肉質の理化学分析～(H25) 島根県受託研究	籠橋有紀子准教授 島根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員・成相伸久科長	
4	西条柿熱柿ビューレを使ったキーマカレーの商品化(H23～H28) 教員個人研究費	赤浦和之教授 まる福農園 福岡博義	
	ライフステージを通じて摂取する脂質栄養のコントロールによる糖尿病予防・治療に 関する研究の活用(H23～) 新産業創出研究会助成研究/学術教育研究特別助成金研究/教員個人研究費	籠橋有紀子准教授 島根大学医学部 大谷浩教授	
6	しまね三味食品科学研究所(籠橋研究室)～「島根県内農産物」で美味しく地域活性化～(H18～) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究 COCLまね地域共育・共創研究助成金研究/島根県受託研究/ 島根県農業協同組合石見銀山地区本部受託研究/教員個人研究費	籠橋有紀子准教授/石田千津恵助教/水珠子助教 川谷真由美助手 島根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員・成相伸久科長・ 高野彰文主任研究員	

保育学科	10	島根県における障がい者アート作品による障がい理解拡充に向けた研究(H29) 学術教育研究特別助成金(個人研究)	福井一尊准教授 島根県/島根県社会福祉協議会
	11	里親向け養育支援研修会に関する実践研究(H29～) 学術教育研究特別助成金(個人研究)	藤原映久准教授 島根県中央児童相談所/松江地区里親会
		初等図画工作科と生活科の複合的観点から捉えた地域資源についての研究(H29) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	福井一尊准教授/矢島毅昌准教授
	8	保小中地域連携による「ふるさと基盤教育」の実証研究(H28～H29) 益田市・島根県立大学共同研究事業	山下由紀恵教授/鹿野一厚教授/矢島毅昌准教授/福井一尊准教授 益田市教育委員会/益田市保育研究会
	9	保育・発達支援における「うた遊び手帳」導入研究(H28～H29) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授/梶間奈保講師/矢島毅昌准教授 松江市立揖屋幼稚園長 秦昌子/松江市立城東保育所長 福頼美恵子
	7	島根県における子ども・子育て支援新制度開始の動向(H27) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授/岸本強教授/藤原映久准教授 島根県健康福祉部青少年家庭課/松江市教育委員会生涯学習課/ 益田市教育委員会社会教育課
	8	保小中連携によるwebシズマップを活用した「ふるさと教育」の開発(H27～H28) 益田市・島根県立大学共同研究事業/北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢 献プロジェクト)研究	山下由紀恵教授/鹿野一厚教授/矢島毅昌准教授/福井一尊准教授 益田市教育委員会/益田市保育研究会
	8	民話蘇生研究-匹見の民話の伝承-(H27) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授/岩田英作教授/高橋純教授 島根大学名誉教授 田中鑿一/益田市教育委員会/ 益田市立匹見中学校/益田市立道川小学校/道川公民館
	9	川本町におけるインクルーシブ相談支援ファイル開発プロジェクト(H27～H29) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	山下由紀恵教授 川本町教育委員会(川本町立川本小学校・川本町特別支援連携協議会)/ 社会福祉法人川本福祉会(川本保育所・因原保育所・川本北保育所)
	11	児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実施(H27～) 学術教育研究特別助成金研究/教員個人研究費	藤原映久准教授 島根県(中央児童相談所)/児童養護施設 安来学園
		音への興味関心を育む研究-「音の絵本」とおとして(H27～28) 学術教育研究特別助成金研究/教員個人研究費	梶間奈保講師
	7	島根県の障害児発達支援における人的環境の課題 -専門職研修プログラムの開発研究-(H26) 教員個人研究費	山下由紀恵教授/山尾淳子コーディネーター
	10	障がい者との共生社会における美術館鑑賞のあり方についての研究(H26) 学術教育研究特別助成金研究	福井一尊准教授 岡山県立美術館/岡山県立大学
	10	山陰の特徴景色を題材とした写真作品による地域文化資源意識の定着に向けて～島根県・鳥取 県全38市町村の今日的姿を絵画的に撮影した作品集の印刷・製本および啓発活動から～(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	福井一尊准教授
		地域の自然と児童文化財を活用した保育者養成プログラムの原理と 方法に関する研究(H26～H28) 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)	矢島毅昌准教授
		地域の子どもを取り巻く児童文化財の現状をふまえた保育者養成プログラムの展開(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	福井一尊准教授
7	保幼小連携教育体制における多様性の研究(H25) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授/岸本強教授/福井一尊准教授/ 藤原映久講師/矢島毅昌講師	
7	島根県における保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題(H25) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授/岸本強教授/福井一尊准教授/ 藤原映久講師/矢島毅昌講師	
8	「ふるさと教育」生涯モデル-島根県益田市モデル-地域資源と共同的体験を保育教育 課程に生かす(H25～H26) 北東アジア地域学術交流研究助成金(共同プロジェクト)研究	山下由紀恵教授/鹿野一厚教授/矢島毅昌講師/福井一尊准教授 白梅学園大学大学院 無藤隆教授/島根県中山間地域研究センター 藤山浩/益田市保育研究会/益田市教育委員会/益田市福祉環境 部/島根県中山間地域研究センター/(株)バイタルリード	
8	民話蘇生研究-『島根県美濃郡匹見町昔話集稿・道川地区』の復刻と再生-(H25) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	山下由紀恵教授 島根大学名誉教授 田中鑿一/益田市教育委員会/ 益田市立匹見中学校/益田市立道川小学校/道川公民館	
11	島根県版児童虐待アセスメント用紙の有効利用に関する研究(H25) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	藤原映久講師	
	保育所における地域支援者との連携について-子どもの体力づくりを中心に-(H25～H26) 学術教育研究特別助成金研究	岸本強教授 松江福祉会(野波保育所)	
	雲南市・幼児期運動指針実践調査研究(H24～H28) 文部科学省委託授業「幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業」	岸本強教授 文部科学省/雲南市	

総合文化学科	研究内容	担当教員
12	『出雲国風土記』の英訳研究(H29) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	松浦雄二教授/ラング クリス准教授/山村桃子講師/ キッド ダスティン講師 島根県立大学短期大学部名誉教授 藤岡大拙
	エリアマネジメントにおける消費生活環境整備に関する研究(H29) COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	藤居由香准教授
13	フォニックス教材開発及び作成(H28) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	ラング クリス准教授/キッド ダスティン講師/小玉容子教授
14	父親による読み聞かせの実態(H28) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	岩田英作教授/マユアキ教授/尾崎智子司書/内田絢子司書 本学非常勤講師 岡本千佳子
15	島根の民話の保存と整理～ふるさと郷育(教育)への活用に向けて～(H28) COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	岩田英作教授 島根大学名誉教授 田中登一
16	戦後松江における観光行政の展開(H28～) 科学研究費補助金・基盤研究C	工藤泰子教授 松江市史料編纂室
	志賀直哉『濠端の住まい』に見る〈自然〉～松江がもたらしたもの(H28) 教員個人研究費	岩田英作教授
	芥川龍之介の松江体験～失恋と『羅生門』誕生のあいだで～(H28) 教員個人研究費	岩田英作教授
13	小学校での「英語読み聞かせ」活動の英語学習に対する効果と、小・中学校における英語多読の導入の方法および効果(H27) COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	小玉容子教授/キッド ダスティン講師
14	「読みメン」の実態調査～男性の育児参加の向上をめざして～(H27) COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	岩田英作教授/マユアキ教授/尾崎智子司書/内田絢子司書 本学非常勤講師 岡本千佳子
15	島根県における伝説の研究(H27) 教員個人研究費	山村桃子講師
15	島根の民話の保存と整理～石見地方の民話の語り手について～(H27) 学術教育研究特別助成金研究	岩田英作教授
16	戦後復興期における松江の観光に関する研究(H27) 学術教育研究特別助成金研究	工藤泰子准教授 松江市史料編纂室
16	松江市の観光振興に向けた取組み-地域志向科目における実践-<H27> COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	工藤泰子准教授 NPO松江ツーリズム研究会
12	『出雲国風土記』の英訳研究<H26～H28> COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	松浦雄二教授/ラング クリス准教授/山村桃子講師/ キッド ダスティン講師 島根県立大学短期大学部名誉教授 藤岡大拙
13	島根の伝統工芸の体験と英語による情報発信(H26) COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	ラング クリス講師
13	島根伝統工芸の体験学習と意識変化の研究(H26) 教員個人研究費	ラング クリス講師
14	大学附属の児童図書専門図書館の調査-おはなしレストランライブラリーの有効活用に向けて-<H26> COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	岩田英作教授/マユアキ教授/内田絢子司書 本学非常勤講師 岡本千佳子
	学生の視点を活かした観光振興の可能性を探る-雲南市吉田町を事例に-<H26> COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	工藤泰子准教授 一般社団法人鉄の歴史村地域文化研究所
12	『出雲国風土記』研究(H25～) 学術教育研究特別助成金研究	山村桃子講師
16	戦前松江の観光に関する研究(H25) 学術教育研究特別助成金研究	工藤泰子准教授 松江市史料編纂室
16	雲南市吉田町における観光振興(H25) COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	工藤泰子准教授 一般社団法人鉄の歴史村地域文化研究所
12	『古事記』作品研究(H24～) 教員個人研究費	山村桃子講師
17	松江の文化資源を社会に活かす取り組み-ハーン研究と地域貢献-(H21～) 学術教育研究特別助成金研究	小泉凡教授

2013-2017 COC経過報告

地域志向教育活動一覧

学科名	vol.6 掲載頁	タイトル(教育活動年度)	学内研究者 ※役職名は該当最終年度現在 連携研究者(機関・協力者)
健康栄養学科		小さなブランド化の可能性調査(H27～28)	酒元誠治教授/島根県立大学総合政策学部 豊田知世講師 邑南町定住促進課
		小学校での食育授業(H19～)	直良博之教授/世良希美嘱託助手/ハウデン由貴嘱託助手 乃木小学校 倉敷徳子教諭/能義小学校 田中奈津美教諭
		患者会への参加(H17～)	名和田清子教授
保育学科		小学校での「図画工作」特別授業-文化庁派遣事業-(H28)	福井一尊准教授 島根県民会館
		松江市「子どもとメディア」対策協議会への協力(H27)	福井一尊准教授 松江市
		松江市保育研究大会(H26～)	小山優子准教授/矢島毅昌准教授 松江市
総合文化学科	10	島根県障がい者アート作品展(H23～)	福井一尊准教授 島根県/島根県社会福祉協議会
		松江市保育研究会造形展(H21～)	福井一尊准教授 松江市
		島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会(H19～)	福井一尊准教授 島根県
		第44回ほいくまつり(S49～) 全人的保育者養成を目指して～ほいくまつりという総合表現活動の取り組み～	保育学科 しまね文化振興財団
		町並み景観資源として瓦を再発見するProblem Based Learning(H29) 住居・まちづくりゼミ	藤居由香准教授 島根県/株式会社丸惣
	17	小泉八雲記念館との連携(H28～)	小泉凡教授
		町並み景観資源として瓦を再発見するProblem Based Learning(H27～H28) -JR西日本主催 山陰みらいドラフト会議-	藤居由香准教授 西日本旅客鉄道株式会社
		地域資源としての小泉八雲をフィールドで学ぶーへるん探求ー(H26～)	小泉凡教授/松浦雄二教授
		五感を使って歴史を学ぶー松江の文化と歴史・しまね歴史探訪ー(H26～)	杉岳志講師
		明治時代の文化財「興雲閣」(H26～) -歴史的建造物の検証・インテリアと文化- 異文化交流を通じて松江を知るーアジア文化交流ー(H25～)	藤居由香准教授 塩谷もも准教授
	地域の文化資源を見つめるー日本文化演習ー(H24～26)	渡部周子講師	
	「古事記」「出雲国風土記」を歩くー日本古典文学ー(H24～)	山村桃子講師	
	島根の魅力英語で発信ー観光フィールドトリップー(H24～)	小玉容子教授/松浦雄二教授/マユアキ教授/ ラング クリス准教授/キッド ダスティン講師	
14	絵本の読み聞かせ(H22～)	岩田英作教授/マユアキ教授	
14	絵本図書館おはなしレストランライブラリーの活動(H21～)	岩田英作教授/マユアキ教授	
	八雲の原文に触れるーへるん作品鑑賞ー(H20～)	松浦雄二教授	
	異文化体験から学ぶーアジア文化演習ー(H19～28)	鹿野一厚教授/塩谷もも准教授	
	山陰の「小さな文化」を楽しむ のんびり雲(H18～28)	大塚茂教授/鹿野一厚教授	
	フィールドワークへのいざないー地域探検学ー(H14～)	鹿野一厚教授/小泉凡教授/工藤泰子教授/塩谷もも准教授	